

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	84人	社会	84人	数学	84人
	理科	84人	英語	84人		

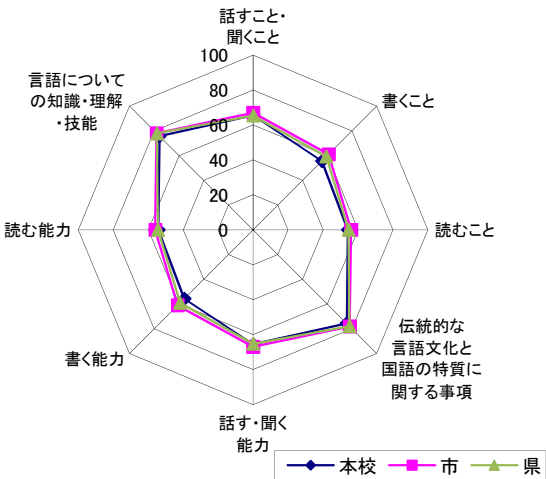
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	65.5	67.0	65.3
	書くこと	55.7	61.1	59.2
	読むこと	54.2	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	65.5	67.0	65.3
	書く能力	55.7	61.1	59.2
	読む能力	54.2	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	75.7	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

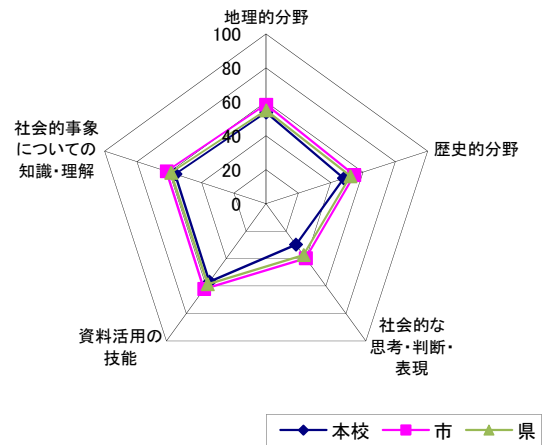
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●「聞き方、話し方の理解」については、県の平均を0.2ポイント上回っているが、市の平均を1.5ポイント下回っている。	・一斉授業だけでなく、小グループやペアなど、いろいろな形態での話し合いで、自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞いたり、話し合いの話題を捉えて自分の考えをまとめたりするような場面を意図的に設定して、能力の向上を目指す。
書くこと	●「書くこと」の中の「目的に合った原稿の作成」では、「題材の捉え方などについて二つの原稿を比較」する設問や「目的に応じて推敲」する設問で、市や県を5ポイント以上下回っているのを始め、他の設問も市や県を下回っている。	・文学的作品に対する感想や、説明文の要旨のまとめなどの授業の振り返りとしての短作文や、意見作文など「書く」活動を通して、目的に合った文章を書く力を高めていく。
読むこと	○「文学作品の内容理解」では、ほとんどの設問の正答率が市や県と同レベルであった。 ●「説明文の内容の理解」では、ほとんどの設問で市や県の正答率から5ポイント以上下回っている。	・文学作品への理解はある程度できているので、今後は「段落の構成と展開」や「接続語の役割」「要旨の把握」などに重点を置いて、説明文への理解力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文節の分け方では、県の平均を10.2ポイント、市の平均を6.8ポイント上回っている。 ●漢字の読み書き、特に「書き」が市町村の平均を下回っている。 ●歴史的仮名遣いでは、県の平均を4.4ポイント、市の平均を6.7ポイント下回っている。	・文節の理解は出来ているので、授業や教材プリントを工夫して、品詞の理解まで発展させる。 ・教材に使われている漢字の「音読み・訓読み」および「書き」の指導をしっかりと行うとともに、作文時には既習漢字を使わせる指導をしていく。 ・古典の単元時だけでなく、日常生活の中でも歴史的仮名遣いに触れる機会を意図的に設ける。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	53.8	58.4	55.0
	歴史的分野	48.1	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	29.9	39.8	37.5
	資料活用 of 技能	56.9	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	56.4	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

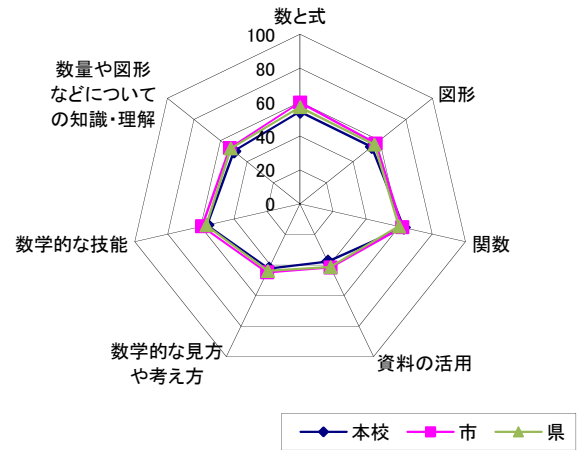
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○世界の諸地域では県平均より8ポイント、市平均より4ポイント上回っている。基礎的な事項は、身に付いている部分も見られる。 ●世界の地域構成では県平均よりも約6ポイント、市平均よりも約10ポイント下回っている。特に思考判断の問いには苦手な生徒が多く見られる。	・地図の読み取りにおいて日頃から地球儀や世界地図を利用して構造的に考えさせる必要性がある。また、なぜこうなるかという興味関心をもって事象を考えるような学習活動を行う。 ・事項と事項を結び付けて考える能力を身に付けさせるために、基礎的事項の学習を、今後も繰り返し継続して行う。
歴史的分野	○インダス文明等古代文明においては、県平均より10ポイント、市平均より5.7ポイント上回っている。この部分は中学校に入学した直後の内容ではあるが、興味をもって取り組んだ成果と推測できる。 ●縄文～古墳の選択問題では県平均より最大10ポイント、市平均より11.5ポイント下回っている。特に事象と事象を関連させた問いには苦手意識をもつ傾向である。	・地理的分野と同じように興味関心をもっている部分では、理解が見られる。また、基礎的な事項の習得も見られる。今後も繰り返し基礎的な事項の復習を行い、より確実な理解が図れるようにさせる。 ・時代と時代の関連を考えるような問いに対しては、苦手意識が見られる。情報を整理して歴史的背景を考え、自分の言葉で発言させる訓練を行っていく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.3	59.8	57.0
	図形	54.0	57.1	56.1
	関数	62.7	61.8	59.8
	資料の活用	37.8	41.6	41.4
観点	#REF!	42.3	44.9	43.9
	数学的な見方や考え方	56.2	59.4	56.8
	数学的な技能	49.8	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

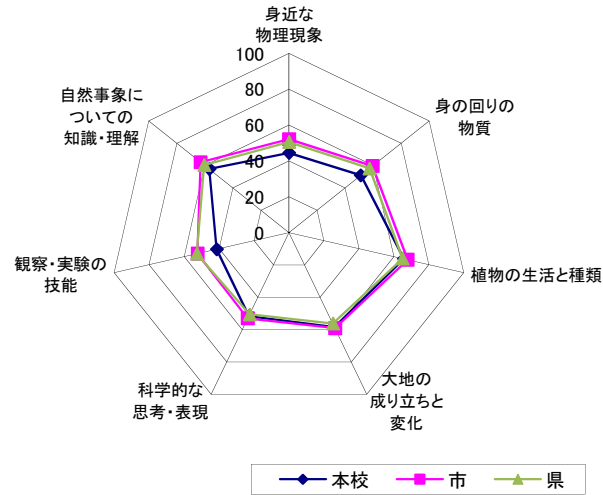
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「問題場面における数量関係を不等式に表す」問題の正答率では、県より7.4ポイント、市より1.3ポイント高い。また、「紙テープがn枚のときの面積を表す式を説明する」問題では、県より5ポイント、市より4.5ポイント高い。 ●栃木県や宇都宮市と比べて最も低いのが「項をまとめる1次式の計算」で、県より15.4ポイント、市より17ポイント低かった。また、「四則の正負の計算」では、県より11.3ポイント、市より14.9ポイント、「係数に小数を含む1次方程式を解く」では、県より9.5ポイント、市より13.9ポイント低い。「n枚のときの面積」では、無回答が39.8%であった。	・四則計算や小数を含む問題では、小数の意味や計算方法が身に付いていないため、解けないことが考えられる。授業の中で復習の時間を設けたり、机間指導の際に計算過程を確認したりすることで、計算方法の定着を図っていく。 ・項をまとめる問題では、3年次でも多項式の計算の単元があるため今後もつまずく可能性がある。それを防ぐために、授業で復習問題を取り入れたり、板書をする際に随時確認しながら進めたりすることで理解を高めていく。 ・無回答のパーセントが多いため、自分の考えを表現したり、説明する機会や考えを話し合う場を多く授業で設けていく。
図形	○「円柱の側面積を求める」では、県より6.4ポイント、市より5.2ポイント高く、「正四角錐の体積を求める」では、5.2ポイント、市より3.2ポイント高い。 ●「三角形の移動について、点Oと直線を用いて説明する」では、県より10.6ポイント、市より12.8ポイント低く、無回答が13.3%あった。また、「点から直線までの距離を作図する(垂線の作図)」では、県より6ポイント、市より7ポイント低い。	・平行線と角、合同な図形の単元において図形の移動の復習を行って授業を進めるようにし、定着を図っていく。 ・作図についても上記の単元を始める前に復習したり、三角形の合同条件を見付けるために作図を用いて授業を行ったりすることで、改善に努めていく。
関数	○「 $y=2x$ のグラフをかく」では、県より17ポイント、市より16.1ポイント高く、「反比例の式に適したグラフを選ぶ」では、県より6.7ポイント、市より5.1ポイント高い。 ●「与えられた点とy軸について対称な点の座標を選ぶ」では、県より6.3ポイント、市より7.5ポイント低い。また、「比例の関係について、 y を x の式で表す」では、無回答が12%であった。	・関数においては、表・式・グラフの関連性をしっかりと理解させた上で指導にあたっていく。 ・2年生で1次関数を学習する上で、1年次の比例・反比例の復習を必ず行う。また、「 y を x の式で表す」の改善のために、1次関数の一般の形をしっかりと身に付けさせ、傾き・切片等の用語の意味などしっかりと授業で理解させていく。
資料の活用	○「度数分布表にあてはまる度数を求める」では、県より1.2ポイント、市より0.9ポイント高い。 ●「条件を満たす階級の階級値を求める」では、県より7.2ポイント、市より12.9ポイント低い。また、「条件を満たす階級の相対度数を求める」では、県より10.2ポイント、市より8.2ポイント低く、無回答が19.3%であった。「ヒストグラムから最頻値を求める」では、無回答が13.3%であった。	・資料の活用における階級値、相対度数、最頻値、中央値などの用語の復習を授業で取り入れ、定着を図る。 ・実生活における身の周りの事象について、調査して結果をまとめ、分析する実践を行うことでヒストグラムについての理解を深める。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	44.4	52.1	50.5
	身の回りの物質	51.2	59.6	57.4
	植物の生活と種類	65.7	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	58.4	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	51.7	53.1	50.6
	観察・実験の技能	41.4	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	56.9	63.1	60.5



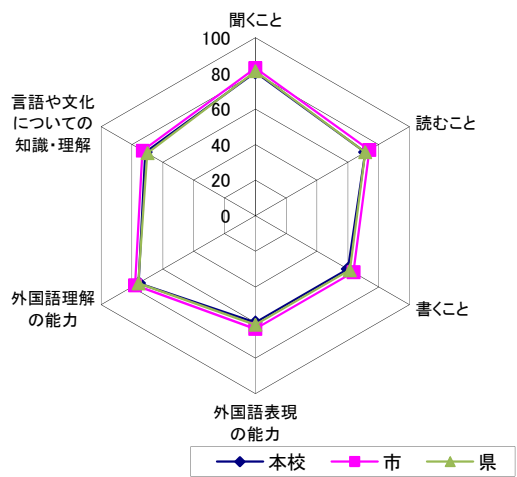
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○反射した光の道すじの推測に関しては県よりも10ポイント近く上回っている。 ●PETのつぶれた理由を考察したり、音の高低の振動数や波形から振幅との関連についての理解や説明が不十分である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・音の大小・高低で、振幅や振動するとの関係を視覚的教材を使用して理解させる。また、実験結果を予想、発表させる時間を確保し、基本的な知識をさらに深めていく。
身の回りの物質	○グラフから沸点の位置を理解することができている。 ●密度を求めてから物質の特定に関しては、県よりも10ポイント以上上回っている。 ●グラフから物質量の求め方ができていない。 ●水溶液の粒子のモデルを推測することができていない。	・基本的な計算問題、小数点の四則計算を数学科と連携して行く。 ・視覚的教材を活用し、理解を深めていく。
植物の生活と種類	○花のつくりや被子植物、裸子植物で、それぞれの胚珠の位置関係については理解ができている。 ○対照実験から植物のはたらきや光合成について考察はできている。 ●器具の使い方に関しては、手順などの理解が不十分である。	・器具の使用については、なぜ、その手順が大切なのかの説明を詳しくする。また、考えさせる。 ・観察実験は、身の回りの植物を活用して行っていく。
大地の成り立ちと変化	○大地の形、地震に関する重要語句などや花崗岩のでき方について理解ができている。 ●火山灰の色から山の形の関連性や、鉱物の色の種類に関しての理解が不十分である。	・重要語句に関しては理解できているが、鉱物の色の種類や山の形などの関連性についての理解が弱いので、身近な教材を活用して理解させる。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	80.6	82.9	81.2
	読むこと	71.2	73.9	71.2
	書くこと	60.0	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	60.0	63.6	61.2
	外国語理解の能力	75.7	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	71.3	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話文を聞いて、動物の数や通学方法、出身国を聞き取る設問では、正答率が90%を超えた。いつ、どこで、だれが、何をしたか、という基本的な単語を聞き取ることは得意である。 ●相手の提案を聞いて、適切に应答する設問では正答率が36.1%だった。対話文を聞き、疑問詞を含む疑問文に应答することは、やや苦手である。	・授業の中で口頭によるQ&Aを増やし、英語の質問、特に疑問詞を含む疑問文を多く取り入れた質問に対する基本的なルールを定着させる。 ・教科書だけでなく副教材のリスニング問題を活用し、聞き取りの問題を多く取り入れて授業展開の工夫を行っていく。
読むこと	○他の領域に比べ、市の正答率との差が小さく、県の平均と同じである。特に、長文を読んで内容を理解する設問では6.3%、文脈を理解し適切に英文を当てはめる設問では4.6%県の平均を上回っている。 ●まとまりのある英語の読み取りにおいて、正答率が4割を切る設問があった。概要や要点を捉えるなどの読み取りの力が身に付いていないためと考えられる。	・教科書の長文を利用し、まとまった文の読み取りに数多く触れさせたり、知らない単語が出てきても前後の文脈から意味を推測できるような練習をする。
書くこと	○過去形やhelp with～の疑問文を理解して正しい語順で書く設問では、県や市の平均を上回った。 ●好きな季節について説明する文、内容につながりのある3文以上の英文を書く設問では正答率が50%を下回った。条件英作文を苦手としている生徒が多い。	・条件英作文の力を付けるために、与えられた場面や対話の流れの中でどんなことを言えばよいかを考える練習や、条件に合わせてどの文型・表現を使えばよいかを考える練習を繰り返し、英文の運用能力を伸ばしていく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

調査結果(全114問から抜粋)

※「学校教育スタンダード」の到達目標と関連のあるもの、および、市平均と5ポイント以上差がある
 ※肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合				
		本校	市平均	市との差	県平均	県との差
1	勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	88.0	77.1	10.9	73.8	14.2
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	75.9	66.4	9.5	65.5	10.4
3	学校の宿題は、やりたくなる内容だ。	49.4	39.2	10.2	40.5	8.9
4	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。	69.9	63.4	6.5	61.4	8.5
5	グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	78.3	71.0	7.3	71.3	7.0
6	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.0	78.7	9.3	77.7	10.3
7	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。	60.2	62.8	-2.6	60.7	-0.5
8	授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。	72.3	73.6	-1.3	79.3	-7.0
9	授業を集中して受けている。	90.4	90.5	-0.1	90.1	0.3
10	できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。	80.7	81.5	-0.8	80	0.7
11	クラスは発言しやすい雰囲気である。	80.7	75.0	5.7	74.5	6.2
12	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	45.8	39.4	6.4	38.4	7.4
13	難しい問題にであうと、よりやるきがでる。	47.0	40.4	6.6	39.5	7.5
14	授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。	74.7	65.9	8.8	63.0	11.7
15	学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていると思う。	88.0	78.7	9.3	77.7	10.3
16	家で計画を立てて勉強をしている。	72.3	59.7	12.6	60.2	12.1
17	家で、学校の授業の予習をしている。	49.4	44.2	5.2	44.0	5.4
18	家で学校の授業の復習をしている。	82.9	66.9	16.0	69.8	13.1
19	家で、テストで間違えた問題について勉強している。	79.5	63.5	16.0	63.0	16.5
20	家で、学校や塾の決められた問題のほかに自分で考えた勉強をしている。	67.5	56.6	10.9	54.8	12.7
21	学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間※2時間以上	27.7	27.3	0.4	31.6	-3.9
22	将来の夢や目標をもっている。	84.3	74.9	9.4	74.0	10.3
23	自分の行動や発言に自信をもっている。	57.8	51.4	6.4	49.1	8.7
24	毎日の生活が充実していると感じている。	94.0	86.3	7.7	85.6	8.4
25	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある。	96.4	90.8	5.6	90.0	6.4
27	自分はクラスの人の役に立っている。	61.4	54.4	7.0	52.4	9.0
28	地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある。	85.5	79.7	5.8	76.5	9.0
29	時間を上手に使うことを、心がけている。	78.3	72.3	6.0	69.6	8.7
30	早寝、早起きを心がけている。	80.7	70.6	10.1	68.8	11.9
31	食事のとき、好き嫌いをしないで食べる。	85.5	79.5	6.0	75.6	9.9
32	家の人、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。	78.3	70.6	7.7	68.2	10.1
33	先生は学習のことについてほめてくれる。	83.1	70.7	12.4	68.0	15.1
34	普段(月～金曜日)、1日当たりのテレビゲームをする時間※1時間未満	42.2	41.4	0.8	40	2.2
35	普段(月～金曜日)、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間※1時間未満、持っていない	68.7	64.7	4.0	67.9	0.8
36	学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。	92.8	93.3	-0.5	93.6	-0.8

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学ぶ意欲・授業について(No.1～No.15)

○No.1、3の肯定的な回答の割合は市平均より10ポイント以上高く、上回り方が大きい。特にNo.1の肯定的な回答の割合は88.0%であり、おもしろさ、楽しさを感じながら学習へ取り組んでいる様子が見られる。

○No.5の「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」、No.6の「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の質問も市平均よりそれぞれ7.3ポイント、9.3ポイント高い。学び合いの姿勢が身に付きつつある。

●No.7の「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の肯定的な回答は市平均より、2.6ポイント低い。考えを文章化する技術は、幅広い学習活動の基盤として重要となる。考えた過程を書いて表したり、考えた理由をまとめたりする活動を授業に取り入れる。

●NO.8の「授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の肯定的な回答は市平均より1.3ポイント、県平均より7.0ポイント低い。生徒側に立った目標(めあて・ねらい)を設定し、何を目指して学習すればよいかを意識した取組を、意図的・計画的・組織的に実施する。また、学びを振り返らせ、何が分かり何が分からなかったのかを確認させることで学習の定着および学習意欲の向上を図る。

●NO.9の肯定的な回答の割合は90%以上であるが、市平均より低い。授業に集中するための、話す、聞くなどの学習規律を徹底する。

家庭学習について(No.16～No.21)

○No.16、18、19は、市平均より12ポイント以上高く、上回り方が大きい。特にNo.18は82.9%、No.19も79.5%と高く、大方の生徒が授業やテストの復習に取り組んでいると言える。

●No.21の「学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間」の質問で市の学校教育スタンダードの目安の2時間を達成している割合は30%未満である。市平均をわずかに上回るものの、県平均より3.9ポイント低い。学校全体の共通理解のもとに家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化に向けた指導を充実させる手立ての具体化を図る。

自分自身のこと・家の人や先生について(No.22～No.36)

○No.24、25の質問の肯定的な回答の割合は、90%を超えている。今後も、学校の全教育活動の中で、適度な設定目標に挑戦する機会を与え、努力して達成する経験を積ませることで、さらに成就感を味わわせる。No.27の「自分はクラスの人役に立っている。」の肯定的な回答の割合が市平均より上回っていることも関係している。自己有用感が成就感に結びついていると考えられる。

○No.29、30の生活習慣の項目は、「時間を上手に使うことを、心がけている。」の肯定的な回答は78.3%と80%に満たなかったものの「早寝、早起きの心がけ」の質問は80%を超えており、市平均より10.1ポイント以上高い。

○No.32、33の「家的人是、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」「先生は学習のことについてほめてくれる。」の肯定的な回答の割合は、市平均を大きく上回っている。ほめてもらえることで自己肯定感、自己有用感が高められる。これに安心することなく、子どもたちのよい